

令和3年6月3日

養父市議会議長 西 田 雄 一 様

生活環境常任委員会
委員長 植 村 和 好

生活環境常任委員会調査報告書

閉会中において、本委員会の所管事務につき調査したことを次のとおり報告する。

記

1 調査年月日 令和3年5月18日（火）

2 調査事項

- (1) 市内の商工業・観光業に対する養父市新型コロナウイルス感染症対策支援制度の現状と今後の取組について
- (2) 北近畿豊岡自動車道周辺の開発構想の現状と今後の取組について

3 調査内容

新型コロナウイルス感染症対策支援制度及び北近畿豊岡自動車道周辺の開発構想の現状と今後の取組について、産業環境部より説明を受け、調査を行った。なお、緊急事態宣言下であり、感染予防対策として本庁舎と養父庁舎とでリモート会議により行った。

- (1) 市内の商工業・観光業に対する養父市新型コロナウイルス感染症対策支援制度の現状と今後の取組について

市の商工業に対する緊急経済対策の主な実績は、緊急地域雇用維持助成金が、申請1件100万円、新型コロナウイルス対策融資支援補助金が申請298件、融資総額74億6,000万円で、融資件数は平常時の約12倍、新規融資額は約14倍の実績となり、事業者の資金繰りが逼迫した状況がうかがえる。

休業要請事業者経営継続支援事業は、県・市の協調事業で、申請115件3,965万円（市の負担額1,321万7,000円）である。但馬全体の支給実績件数は1,153件で、各市町の支給実績を見ると、豊岡市679件、朝来

市 121 件、香美町 160 件、新温泉町 78 件である。

事業者応援定額給付金として中小法人（40 万円）、個人事業主（15 万円）を対象に市独自の支援対策を行っており、支払件数は、法人 386 件、個人 715 件の合計 1,101 件で、支払総額は 2 億 6,165 万円の給付となっている。

新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金事業は、県の要請に応じて営業時間の短縮に協力した飲食店等に対し、協力金（1 日あたり 6 万円/4 万円）を支払うもので、市内対象店舗数 92 店舗の想定に対して、1 月 14 日から 2 月 7 日までの給付状況は 79 店舗、支給割合は 86%であった。

地域経済循環促進事業は、生活支援と経済活動の回復対策で、市民に対し市内事業者の店舗で利用可能なクーポン券第 1 弾（3,000 円相当）、第 2 弾（5,000 円相当）を配付した。換金率は第 1 弾 97.2%、第 2 弾 97.8%で、利用業種では小売業、飲食業、美容、サービス業の順となっている。

観光地誘客促進事業補助金は申請 4 件、4,000 万円を補助した。

養父市スキー場利用促進事業は、市民を対象に市内 4 スキー場で利用できるリフト券の引き替え券 4,000 円相当を、1 人あたり 3 枚を上限に配付した。利用実績は 6,900 枚の配付に対し、換金枚数は 3,707 枚、54%の換金率と想定より低調な結果であった。

（まとめ）

国の緊急事態宣言による各事業者等への経済支援対策事業により、国・県や市単独の対策等多くの支援が行われ、一定の効果は確認できた。スピード感を優先したため、多くの施策は事業規模等加味せず一律の支援となった。飲食事業者等への時短要請や市民の外出自粛等、市内経済活動に大きく影響する状況にあったが、市内事業者の倒産、廃業も無く一連の支援対策は評価できる。しかし、今回対象とした業種以外にも大きな影響を受けており、その関連事業者への支援策も講じるべきである。新型コロナウイルス感染症の影響で事業者の資金繰りは逼迫しており、今後、アフターコロナの事業者支援は当面必要であると考え。市単独支援対策のうち、市内事業者の店舗等で利用可能なクーポン券の配付事業は利用しやすく、換金率も高いため多くの利用で大きな経済効果に繋がった。スキー場支援策のリフト券購入のための引き替え券配付事業は、換金率が 54%とやや低調であった。今回の結果を受け止めて、事業内容等を再考し、グリーンシーズンの事業展開の模索も必要であると考え。

今後においては、どの事業においても持続可能な事業形態と市民意識の変革が求められる。官民一体となって探求し、アフターコロナ時代の到来に備えることが重要である。

(2) 北近畿豊岡自動車道周辺の開発構想の現状と今後の取組について

平成24年3月に北近周辺開発構想が作成され、市の発展に効果ある集客施策をまとめている。市内の玄関口2カ所のICを中心に4地域に区分ゾーニングした構想で、八鹿氷ノ山IC周辺（高柳地域）は、年間26万人以上が利用する「道の駅ようか但馬蔵」を中心に市内誘導案内看板設置、飲食店や小売店等の誘致を進めて国道9号線沿いに成果が出ている。道の駅での恒例化した集客イベントの他、県立但馬長寿の郷とつるぎが丘公園を中心にした公園、文化・スポーツ・歴史などを活かした交流人口の増加を目指している。また、道の駅近くにはホテル建設が予定され、来秋開業する等、商業誘致に成果が出ている。養父IC周辺は、大屋、関宮方面への観光施設等への誘導を図っている。

周辺土地を商工業、農業利用に供する整備を推進するゾーンとして、地元の意向を踏まえ土地利用計画をし、旧浅野・旧南谷・旧西谷小学校の廃校利用による地域活性化を進めている。北近以東（朝倉地域）ゾーンは八鹿氷ノ山ICから約1kmに位置し、北近利用者のみならず地域の活性化に重要なゾーンで商業施設の誘致を行い近隣市町の物流拠点の大型運送事業者、大型商業施設の進出で地域の活性化に大きな成果をあげている。

(まとめ)

北近自動車道にある市内2ヶ所のIC周辺の開発構想は、平成24年の策定以降、交通アクセス道計画の整備も進み、八鹿氷ノ山IC近隣には「道の駅ようか但馬蔵」が開設しており、北近自動車道の利用客だけでなく、市内や但馬地域からも多くの利用客があり、地域経済の活性化に大きな効果を上げている。今後、近くには来秋開業のホテルも予定されており、企業誘致が進む見込である。小売業、飲食業も国道9号線沿いに開業して、道の駅但馬蔵を中心に市の玄関口としての役割が構築できつつある。また、朝倉地域は、大型運送事業者や大型店舗商業施設の開業を契機に、今後もこの地域の立地条件を前面に出した企業誘致を積極的に行い、新たな流通による市内経済活性化を期待する。養父IC周辺では、大屋、関宮地域への誘導案内を行い、今後も地域の特徴を生かした企業誘致等を積極的に進めていくことが望まれる。

北近周辺開発構想の2つのICは、養父市の玄関口として今後のまちづくり計画への位置づけなど長期的な展望が求められる。